

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人
浜本 忠

様

あて名

〒 105-0001
東京都虎ノ門1丁目5番16号

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年) 12.4.2005

出願人又は代理人
の書類記号 PCT04-59

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号
PCT/JP2004/019702

国際出願日
(日.月.年) 22.12.2004

優先日
(日.月.年) 25.12.2003

国際特許分類 (IPC) Int.Cl⁷ A01M1/20, A61L9/12

出願人 (氏名又は名称)
フマキラー株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☒ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

25.03.2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)
郵便番号 100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)
吉田 佳代子

2B 9516

電話番号 03-3581-1101 内線 3236

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第IV欄 発明の単一性の欠如

1. 追加手数料納付の求め（様式PCT/ISA/206）に対して、出願人は、

- ☒ 追加手数料を納付した。
- ☐ 追加手数料の納付と共に異議を申立てた。
- ☐ 追加手数料の納付はなかった。

2. ☐ 国際調査機関は、発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。

3. 国際調査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。

- ☐ 満足する。
- ☒ 以下の理由により満足しない。

請求の範囲1及び2に記載された発明は、送風式薬剤放散装置の装置本体に設けられる送風機取付用凹部と電池収容凹部の配置に、特別な技術的特徴を有するものである。

請求の範囲3-10に記載された発明は、送風式薬剤放散装置の排気口の形状に、特別な技術的特徴を有するものである。

請求の範囲11-15に記載された発明は、送風式薬剤放散装置の電源本体を装置本体とは別体とすることに、特別な技術的特徴を有するものである。

請求の範囲16-20に記載された発明は、薬剤カートリッジにおいて、薬剤含浸体の保持部と薬剤含浸体との間に空間部を設けることに、特別な技術的特徴を有するものである。

請求の範囲21-23に記載された発明は、薬剤カートリッジにおいて、薬剤含浸体の保持容器に液溜め凹部を形成することに、特別な技術的特徴を有するものである。

請求の範囲24及び25に記載された発明は、薬剤カートリッジにおいて、薬剤含浸体に、一部分に高吸液部を有する担体を用いることに、特別な技術的特徴を有するものである。

請求の範囲26-31に記載された発明は、薬剤カートリッジにおいて、薬剤含浸体に、シートを所定の折り幅で山折り、谷折りを交互に繰り返して多数折り畳んだひだ形状のシート材を用いることに、特別な技術的特徴を有するものである。

請求の範囲32-35に記載された発明は、ハニカム体とシート体とからなる薬剤含浸体に、特別な技術的特徴を有するものである。

よって、請求の範囲1-35に記載された発明は、発明の単一性が認められず、この国際出願の発明の数は、以下のとおり8である。

請求の範囲1及び2、請求の範囲3-10、請求の範囲11-15、請求の範囲16-20、請求の範囲21-23、請求の範囲24及び25、請求の範囲26-31、請求の範囲32-35

4. したがって、国際出願の次の部分について、この見解書を作成した。

- ☒ すべての部分
- ☐ 請求の範囲 _____ に関する部分

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-23, 26-35	有 無
	請求の範囲 24, 25	
進歩性 (IS)	請求の範囲 16-23, 26-29, 32-35	有 無
	請求の範囲 1-15, 24, 25, 30, 31	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-35	有 無
	請求の範囲	

2. 文献及び説明

- 文献1 : P 3071760 U (フマキラー株式会社) 2000.09.22, 全文, 1-13図 (ファミリーなし)
- 文献2 : JP 2001-95458 A (アース製薬株式会社) 2001.04.10, 段落番号【0017】-【0020】, 第1図 (ファミリーなし)
- 文献3 : JP 5-219166 A (松下電器産業株式会社) 1993.08.27, 全文, 第1-3図 (ファミリーなし)
- 文献4 : JP 2001-197856 A (アース製薬株式会社) 2001.07.24, 全文, 第1-4図 (ファミリーなし)
- 文献5 : P 2003-9746 A (住友化学工業株式会社) 2003.01.14, 全文, 第1-5図 (ファミリーなし)
- 文献6 : JP 2003-102361 A (大日本除蟲菊株式会社) 2003.04.08, 全文, 第1-7図 & US 2003-160062 A1 & EP 1352562 A1 & CN 1395827 A
- 文献7 : JP 10-94555 A (安田繁之) 1998.04.14, 段落番号【0049】, 【0076】, 第1-4図 (ファミリーなし)
- 文献8 : JP 2003-102362 A (フマキラー株式会社) 2003.04.08, 段落番号【0042】-【0052】, 第4-5図 (ファミリーなし)
- 文献9 : JP 53-14329 A (ザ・リスドン・マニユファクチュアリング・カンパニー) 1978.02.08, 全文, 第1-4図 & US 4035451 A & GB 1542177 A & DE 2733253 A & FR 2358897 A & CH 616586 A & NL 7708126 A & AU 2657077 A & CA 1049963 A

請求の範囲1

請求の範囲1に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献1及び2により、進歩性を有さない。

上記文献1には、ヒンジで開閉自在な一側本体と他側本体とで、送風式薬剤放散装置の本体を構成することが記載されている。

そして、上記文献1に記載された送風式薬剤放散装置において、送風機、電池及び薬剤含浸体の配置を、上記文献2に記載された配置とすることは、当業者が容易に想到し得るものである。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V.2 欄の続き

請求の範囲 2

請求の範囲 2 に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献 1－3 により、進歩性を有さない。

上記文献 3 には、携帯する機器の吊り下げ具のフックを、機器本体に嵌合してスタンドとすることが記載されている。

上記文献 1 に記載された送風式薬剤放散装置において、上記文献 3 の記載に基づき、吊り下げ具のフックを、装置本体に嵌合してスタンドとすることは、当業者が容易に想到し得るものである。

請求の範囲 3 及び 4

請求の範囲 3 及び 4 に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献 4 及び 5 により、進歩性を有さない。

上記文献 4 に記載された送風式薬剤放散装置の排気口を、上記文献 5 に記載されたファンの回転方向に傾斜した側壁面からなる排気口とすることは、当業者が容易に想到し得るものである。

請求の範囲 5

請求の範囲 5 に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献 4－6 により、進歩性を有さない。

上記文献 4 に記載された送風式薬剤放散装置において、モータと電池の配置を、上記文献 6 に記載された配置とすることは、当業者が容易になし得るものである。

請求の範囲 6－10

請求の範囲 6－10 に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献 4－6 により、進歩性を有さない。

上記文献 6 には、排気口の数を三つにすることが記載されているので、上記文献 4 に記載された送風式薬剤放散装置において、上方向及び下方向の排気口に加えて、第三の排気口を設けることは、当業者が容易に想到し得るものである。

そして、各排気口の開口寸法は、排気口の向き等を考慮して、適宜設定される設計事項である。

請求項 11－15

請求の範囲 11－15 に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献 1 及び 7 により、進歩性を有さない。

上記文献 7 には、携帯する機器の電池ボックスを機器本体と別体とし、連結コードで連結することとして、機器本体と電池ボックスとを別々に携帯して使用することが記載されている。

よって、上記文献 1 に記載された送風式薬剤放散装置において、電池ボックスと機器本体を別体とし、連結コードで連結することは、当業者が容易に想到し得るものである。

連結コードの装着手段については、必要に応じて適宜設けられるものに過ぎない。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V.2 欄の続き

請求の範囲 16-20

上記文献4及び5は、当該技術分野における一般技術水準を示す文献であって、薬剤含浸体の保持部と薬剤含浸体との間に空間部を形成し、この空間部を保持部に形成した通気部で外部に開口させることは、国際調査報告で提示された何れの文献にも記載も示唆もされていない。

請求の範囲 21-23

上記文献4及び5は、当該技術分野における一般技術水準を示す文献であって、薬剤含浸体の保持容器に液溜め凹部を形成することは、国際調査報告で提示された何れの文献にも記載も示唆もされていない。

請求の範囲 24及び25

請求の範囲24及び25に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献8により、新規性を有さない。

上記文献8には、一部分を他の部分より厚くしたシート状の薬剤含浸体を保持した薬剤カートリッジが記載されている。

請求の範囲 26-29

上記文献2は、当該技術分野における一般技術水準を示す文献であって、ひだ形状で、かつ扁平な加工シート材の周縁部を接合すること、又は周縁部を押しつぶして固定具で保持することは、国際調査報告で提示された何れの文献にも記載も示唆もされていない。

請求の範囲 30

請求の範囲30に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献2及び8により進歩性を有さない。

上記文献2に記載された蛇腹形状の薬剤含浸体を、上記文献8に記載された容器内に設けて薬剤カートリッジを構成することは、当業者が容易に想到し得るものである。

請求の範囲 31

請求の範囲31に記載された発明は、国際調査報告で提示された上記文献6及び8により進歩性を有さない。

上記文献6に記載された容器に、上記文献8に記載されたひだ形状の薬剤含浸体を収容して、薬剤カートリッジを構成することは、当業者が容易に想到し得るものである。

請求の範囲 32-35

上記文献2は、当該技術分野における一般技術水準を示す文献であって、ハニカム体とシート体とで薬剤含浸体を構成することは、国際調査報告で提示された何れの文献にも記載も示唆もされていない。